

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
		【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
		【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策			
確かな学力	児童が各教科等の特徴に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究を充実させ、授業力の向上を図る。 学がここの楽しさや実感をさせる授業を積み重ね、主体的・対話的で深い学びによる学力向上を推進する。 児童の学力を把握し、実施に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	教員それぞれが抱える課題について年間3回の校内研究会を行い、小グループで検証することで、より主体的な授業改善を図る。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	4	4 授業力診断シートの平均が4月より、0.4P以上高い。 3 授業力診断シートの平均が4月より、0.2P以上高い。 2 授業力診断シートの平均が4月同様(誤差0.1P) 1 授業力診断シートの平均が4月より、0.2P以上低い。	4	全ての教員がそれぞれに視点をもって授業改善に取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を実感した。それによって、年度末の校内発表会では、たくさんの成果を共有することができた。	4	先生方が大変熱心に取り組んでいたが、授業改善の減速については持続可能な形で継続していく。	4	研究内容は変わるが、チームや科会などの学び合いの成果(実績)を生かし、授業改善の減速については持続可能な形で継続していく。		
			GIGA端末やICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自らが課題意識をもたせて対話的な学びを進める。個別最適な学習を展開していく。	4 6割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実施した。 3 7割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実施した。 2 6割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実施した。 1 4割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実施した。	3	4 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的 3 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的 2 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上肯定的 1 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上肯定的	3	一人1台端末が定着し、児童が自分合ったツールを選択して学習する姿も現れている。複数教科が同時に活用されることで、ネットにつながらなくなったハード面での課題は引き続き大きい。	3	「タブレット」と紙と鉛筆それぞれの良さがあると考えて、そのバランスを図りながら推進していく。またネットの基本的な「ナーチャー」や、危険性などについても教えて欲しい。	3	ネットワーク環境の現状について、市に改善要望する。情報モラルに関して、「情報モラル教育計画」を継続して推進し、タブレット端末の活用取組、情報モラル全校指導、タブレット端末一斉修理など、保護者とも連携して進める。		
			授業改善推進プランを活用したり、単元ごとの3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体性を意識した授業を実施する。	4 90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 3 85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 2 80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 1 70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が95%以上 3 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上 2 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上 1 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が70%未満	4	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。また、児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上	3	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。また、児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上	3	PDCAサイクルにより更なる学力の向上を期待します。	3	児童の学習状況を日常の授業や学力調査から把握する。把握した課題に応じた授業改善をPDCAサイクルに沿って行っていくことにより一層浸透させていく。
			年度内の学校生活目標3(ほど)は挨拶が自然に出来ること、児童会を中心とした挨拶運動に取組ませたり、挨拶指導の強化を図る。	4 全教職員が日常的に指導した。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上 3 児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上 2 児童アンケート「自分から挨拶」が60%以上 1 児童アンケート「自分から挨拶」が60%未満	4	朝の入室時に児童を出迎えたり、挨拶の声をかけたりすることができた。また、挨拶が習慣化し、マメクしなことが増え、教員も児童と目を合わせることが増え、コミュニケーションの機会が増えた。	4	朝の入室時に児童を出迎えたり、挨拶の声をかけたりすることができた。また、挨拶が習慣化し、マメクしなことが増え、教員も児童と目を合わせることが増え、コミュニケーションの機会が増えた。	4	タイムリーな挨拶ができていない大人も多い。昨今、児童は良く声を出していると思う。児童も大人も継続して、挨拶運動を推進して欲しい。	4	朝の入室時の出迎えや挨拶を継続し、職員も率先して挨拶をするように心がける。また、児童会などによる発的な挨拶運動の実施も引き続き行って欲しい。
豊かな心	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを振り返ることで、道徳的・社会的判断力、心構え、実践意欲と態度を育成する。 心身の安全を確保する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごることができる学校にする。	道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳推進教師を中心に、道徳的授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が95%以上 3 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が90%以上 2 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%以上 1 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%未満	4	ふれあい月や道徳授業地区公開講座の際には「いじめ」を取り上げた授業を行い、道徳推進教師が研修の案内を行った。また、年間計画どおり各学年が授業を行い、ワークシートに記入を後で共有した。	4	「いじめ」は学校だけでなく家庭でも問題でなく、保護者との密接な関係も重要であり、その点で道徳授業地区公開講座のような保護者と学校(先生)による、学びや意見交換は大変有意義だったと思う。	4	ふれあい月や道徳授業地区公開講座で引き続き「いじめ」を取り上げ、道徳教育推進教師を中心とした指導の充実など、学校の取組を保護者や地域に発信していく。	4	ふれあい月や道徳授業地区公開講座で引き続き「いじめ」を取り上げ、道徳教育推進教師を中心とした指導の充実など、学校の取組を保護者や地域に発信していく。
			人権教育プログラムやいじめ総合計画に基づいた組織的な取組により、必要に応じていじめ対策委員会を開く。また、年に3回以上「いじめに関する授業」を実施する。	4 全教職員が3回以上「いじめに関する授業」を行った。 3 90%が3回以上「いじめに関する授業」を行った。 2 80%が3回以上「いじめに関する授業」を行った。 1 80%未満が3回以上「いじめに関する授業」を行った。	4	4 児童アンケート「いじめは許さないこと」が95%以上 3 児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上 2 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%以上 1 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%未満	4	毎学期、学校生活児童アンケートを行い、気になることは全て担任が聞き取りを詳細に行い対応した。また、ふれあい月間に行っていたいじめに関する授業を活用した研修を行った。職員夕会で情報共有を行った。	4	アンケートや個別な聞き取りと、先生方の情報共有により、問題が大きくなる前に対応していたのではないかと思います。つながっていると思います。	4	いじめ対策委員会を毎月定例で実施し、常に情報の共有を行い、組織で人権教育の推進を継続する。また、学校生活アンケートを年3回実施して、小さなサインを見逃さないように丁寧に対応する。		
			昨年の体力調査の結果分析から、敏捷性と投力(ボールを遠くへ投げる力)に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマに元氣アップガジェット(運動の運動エネルギーを参考として、元氣アップタイムを実施する。	4 全校児童が参加した。 3 90%以上の児童が参加した。 2 80%以上の児童が参加した。 1 70%以上の児童が参加した。	4	4 児童アンケート「健康について学び理解している」が80%以上 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4	元氣アップタイムや体力の授業を通して、積極的に運動するようになった。しかし、運動能力が学校全体として向上しているわけではない。学校の限られた時間だけでなく、多様な多様な運動が児童ができるように発信していく必要がある。	3	元氣アップタイムや体力の授業を通して、積極的に運動するようになった。しかし、運動能力が学校全体として向上しているわけではない。学校の限られた時間だけでなく、多様な多様な運動が児童ができるように発信していく必要がある。	3	放課後や休日に外で元気に遊ぶ児童を褒めることがないと感じます。言い事や室内でのゲーム遊びなどが原因と想像します。コロナも一区切りついたので使った遊びを奨励して欲しい。	3	元氣アップタイムや体力の準備運動を活用した様々な運動遊びを紹介したり実施したりして、放課後の遊びにつなげて欲しい。また、全体的な体力向上の取組を意図的・計画的に実施する。
			基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。 児童の危険予知能力を育成し、危険を回避する能力を向上させる。	4 全教職員が日常的に指導を行った。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「健康について学び理解している」が70%以上 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4	児童アンケート「健康について学び理解している」が60%以上 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4	毎月15分程度の避難訓練や安全指導を行っている。ただ、それが当たり前になりすぎていて児童の中での実感が少ないと思われる。安全指導についての体験や実感が生まれ取組を模索する必要がある。	2	いざという時の避難や防災意識は日頃の訓練や、繰り返して生じられることと思われる。児童にとってマンネリにならないように、地域の防災訓練に参加したり地域と連携した取組も検討したい。	3	防災講座を充実させるなど地域とのつながりも取組を検討していく。また、グッドモーニング60分を担って実施している訓練を実施するなど、安全指導の内容を充実させる。
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を伸ばし、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。 児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や達成感、自己有用感をもたせる。 体験的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	児童が自主的に活動できるように、特別活動(大人10の役割)を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4 全教職員が話し合い活動を充実させた。 3 90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 2 80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 1 70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	4	4 児童アンケート「話し合う時間」が95%以上 3 90%以上の学級で話し合う時間にする 2 80%以上の学級で話し合う時間にする 1 70%以上の学級で話し合う時間にする	3	特別活動主体が中心となって、全校級に学級会グッズを準備し、学級活動の進め方に関する研修を行うため、各クラスで話し合いが実施された。さらに、児童主体で話し合いが進むようにしている。	3	話し合いを進めるために学級会グッズの準備等、工夫を継続して実施したことにより成果が出ている。特に初開級の「祭り」は素晴らしい。	4	学校経営の基盤として学級活動を位置付け、全ての学級で日常的に実施できるようにする。	4	学校経営の基盤として学級活動を位置付け、全ての学級で日常的に実施できるようにする。
			児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びアートフェスティバルの計画を立て、実施する。	4 90%以上の児童が楽しく参加した。 3 80%以上の児童が楽しく参加した。 2 70%以上の児童が楽しく参加した。 1 60%以上の児童が楽しく参加した。	4	4 児童アンケート「行事の満足度」が90%以上 3 80%以上の児童が楽しく参加した。 2 70%以上の児童が楽しく参加した。 1 60%以上の児童が楽しく参加した。	4	実行委員会を中心に児童が話し合い、行事の満足度や工夫を考慮することで、行事の満足度が高くなった。各学年での話し合いが充実した。実行委員の話し合いも活性化するように計画していく。	4	始めに開催された「祭り」は児童主体で、それぞれ工夫されており、とても面白い取組であった。	4	学校行事だけではなく、委員会活動や総合的な学習の時間と関連させて、学校全体で「みんなが笑顔」になるために、異学年交流の機会を盛り込んだ企画を計画・実行していく。		
			生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、ゲストティーチャーや出前授業等、人との関わりを体験的活動を計画して実施する。	4 全学年が体験的活動を実施した。 3 5つの学年が体験的活動を実施した。 2 4つの学年が体験的活動を実施した。 1 3つの学年が体験的活動を実施した。	4	4 児童アンケート「学校の授業は分かりやすいですか。」が98%以上 3 95%以上の学級で話し合う時間にする 2 90%以上の学級で話し合う時間にする 1 85%以上の学級で話し合う時間にする	3	単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施し、児童の興味関心を喚起することで児童の学びが深まった。各学年で活用した外部人材を記録しておくことで、次年度に引き継ぐ。	3	地域にはいろいろな知識や経験をお持ちの方も多く、学校の年間計画に合わせて活用した外部人材を記録しておくことで、次年度に引き継ぐ。	3	地域人材との交流の機会を増やす。また、体験的活動を増やす。		
			児童が自主的に活動できるように、特別活動(大人10の役割)を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4 全教職員が話し合い活動を充実させた。 3 90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 2 80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 1 70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	4	4 児童アンケート「話し合う時間」が95%以上 3 90%以上の学級で話し合う時間にする 2 80%以上の学級で話し合う時間にする 1 70%以上の学級で話し合う時間にする	3	特別活動主体が中心となって、全校級に学級会グッズを準備し、学級活動の進め方に関する研修を行うため、各クラスで話し合いが実施された。さらに、児童主体で話し合いが進むようにしている。	3	話し合いを進めるために学級会グッズの準備等、工夫を継続して実施したことにより成果が出ている。特に初開級の「祭り」は素晴らしい。	4	学校経営の基盤として学級活動を位置付け、全ての学級で日常的に実施できるようにする。	4	学校経営の基盤として学級活動を位置付け、全ての学級で日常的に実施できるようにする。